インベスターデイ 2021　質疑応答

開催日：　2021 年 6 月 8 日（火）

説明者：　執行役員　ウェルネス事業本部長　菅原 正人

司会進行：IR 部長　稲室 昌也

＜質問 1＞
資料 P9 の持分個社 EBITDA の増益目標について、23/3 期に 150 億円の増益を見込み、その先もかなりの確度での成長を見込んでいるが、23/3 期について具体的な施策がある上で増益を見込んでいるのか教えて頂きたい。また、その先 26/3 期や将来目標は、新規の投資を想定した上での目標値なのか、現状のアセットである程度算段がついているのか、資産規模あるいは投資という観点でイメージを教えて頂きたい。26/3 期 EBITDA1,100 億円については、IHH で目指している ROE2 桁弱を達成している想定か教えて頂きたい。
＜回答＞
22/3 期は IHH における新型コロナウイルスの影響からのリカバリーを見込む。既に新型コロナウイルス感染症拡大以前を上回る水準まで回復しており、この伸びを見込んでいる。23/3 期での新たな単独での投資は考えていない。個々の事業の増益を見込むもの。一方、次期中期経営計画期間となる 26/3 期に向けては、新しい事業群の組成、ラボ事業等の収益貢献を見込んでいる。
将来構想は不確定要素もあり、まだ ROE の精緻な試算は行っていない。パイプライン案件として見ているが、対外的に説明する段階になっていない案件が複数ある。当社としての指標の一つである ROIC を意識し取り組んでいく。

＜質問 2＞
IHH のデータ事業について、従前はデータ形式の統一等を進めており、まだこれからという説明だったが、本日の説明を聞くと、そこまで遠くない将来なのか、と感じた。現時点で蓄積されているデータは、例えば治験で製薬会社に提供する、等のレベルまで精度が上がっているのか、3,000 万人のデータがどこまで使える形になっているのかという観点で詳細を教えて頂きたい。データ事業の母体は当社なのか、それとも IHH サイドでビジネスが立ち上がっていくのか。
＜回答＞
IHH のデータを一元化することからプロジェクトは始まるが、申し上げたかったのは、このプロジェクトが着々ともうスタートしつつある、ということ。IHH と当社の共同作業として取り組んでおり、そう遠くない将来に具体的にご説明できると考えている。まずは、資料 P6 左側は IHH 自身データを活用して経営効率改善を図ることを示している。これにより相応の規模の収益貢献が得られると考えている。一方、右側は、当社主導で IHH の外に向けて如何にしてデータを使ってビジネスをつくるのかを示している。対象は個人、保険事業者、製薬・医療機器企業あたりを想定しており、既にアジア最大規模の病院データを使ったビジネス展開について関心が寄せられている。

＜質問 3＞

キャッシュ・フローの考え方について質問したい。KPI が持分個社 EBITDA としているのは、IHH が当社にとって持分法適用会社であるということが一つの背景かと想像している。現状は IHH の収益を取りこめていない部分があると思うが、いずれは持分を増やして全体を取り込みたいということが成長戦略と一つとしてあるのか、或いは、データ事業での三井物産としてのキャッシュ・フロー取込を期待し、IHH は持分法適用会社であり続けることはヘルスケアニュートリション領域の成長に大きな影響を与えないと捉えた方が良いのか、教えて頂きたい。

＜回答＞

IHH は持分法適用でありキャッシュ・フロー全体を取り込んでいない。但し、キャッシュ・フロー取込を狙い、IHH 持分を買い増すということは現時点で想定していない。現時点では持分個社 EBITDA を成長指標として採用しており、キャッシュ・フローの獲得は次のフェーズへの課題と認識している。尚、データ事業は、キャッシュ創出という観点で、早期段階で多くを期待できるわけではないことから、当面は企業価値を高めることで時期を見ながら部分的な含み益をマネタイズしていく形でキャッシュ・フローを実現する。その上でなるべく早いタイミングを期待しているが、次の事業群を立ち上げ、確りと（持分法適用等のみならず）連結ベースの事業を増やしキャッシュ・フローを取り込んでいきたいと考えている。

以上